

## 人はなぜ学ぶのか

校長 前原隆志

本校は、山口地区附属幼・小・中学校 3 校園での一貫教育に取り組んでいます。

3 校園の学園目標を「発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場」とし、めざす人間像を「よりよい未来を共に創り出す人間」と掲げました。

また、本校教育目標を、

「昨日（かこ）よりも今日（いま）を 今日（いま）よりも明日（みらい）を  
～まえむき・ひたむき・さわやかな学校～」

とし、直面する課題解決に真剣に取り組む生徒を育みたいと考えています。

こうした取組の中心にあるのは、学びに向かう生徒の姿です。ここで、「人はなぜ学ぶのか」について考えてみましょう。

大人も勉強しますが、それは仕事に必要な内容に限られています。勉強しなければならぬ理由がはっきりしているのです。ですから、大人は国語も数学も勉強しません。では、中学生は何を何のために学ぶのでしょうか。

その答えの一つ目として、ある人は、「勉強って言うのは、わからない、ということに慣れる練習をしているんだ。」と言っています。

○×で正解が出るのは、ペーパーテストの世界だけ。本当の社会は、複雑でわからないことだらけです。そのわからないことを面白いと思うことができるよう、勉強でトレーニングするのです。

答えの二つ目は、大阪のお好み焼き屋さんに入ったとき、箸袋にありました。そこには「やったらわかる、わかるとは変わる」と書いてあったのです。

お好み焼き屋の職人さんは、親方から「こうやって焼くんだ。わかったか」と言われて、「はい」と答えたら、行動が変わらなくてはならないのです。前のままだと、「わかったらんやないか」と怒られます。私は、お好み焼き屋さんで、学ぶということは、行動を変えるところだ、と教えてもらった気がします。

答えの3つ目は、イギリスの登山家が、山に登る理由を答えた中にありました。「なぜ山に登るのかと問われた彼は、「そこに山があるから」と答えたそうです。

むこうに山が見える。その山を登ったら、またその向こうに高い山があった。だから、そこにある山に登るのだそうです。一生懸命勉強して、ある地点に達する。すると、そこからしか見えない新しい世界が開けてくる。人は、その向こうにあるものをめざして、また次の一步を踏み出すのです。

勉強する目的に、本当の答えはありません。ただ、①わからないことに向き合う楽しさを知ること、②学んで行動を変え、③新しい目標を見つけること、この3つは、学びに向かう私たちにとって、とても大切なことだと思います。

附属山口中学校は、永遠の問いである「なぜ学ぶのか」の答えを、みんなで探し続ける学校でありたいと思います。